

過去の行事 (4月)

着任の御挨拶



皆様、こんにちは。
本年4月にキルギス日本人材開発センター(以下、日本センター)に共同所長として着任しました高坂です。私はこれまで約20年間、日本の民間企業とJICAで勤務してきました。これまでもキルギスには何度か出張で訪れたことはあり、自然が美しく、人々が親切であることから大好きな国でしたが、このたび現地に腰を据えて働くことができる貴重な機会を頂きまして大変嬉しく思っています。
キルギスは、30歳未満の人口が総人口の6割以上という若年人口が極めて多い国です。また、大変な親日国であり、日本の経験やノウハウを学ぼうとする気持ちとともに、日本とキルギスの関係発展を期待されていることを強く感じます。日本センターは、ここキルギスにおいてJICAの技術協力プロジェクトとして、カウンターパートのキルギス民族大学、また、国際交流基金の協力を得て、「ビジネスコース」、「日本語コース」、「相互理解促進」などの事業を実施してきており、ビジネス人材の育成を通じた民間セクター開発や日本とキルギスの交流の拠点として両国関係の発展に貢献しています。また、上記の活動に加えて、日本企業のキルギス進出の際の情報提供や通訳の紹介といった両国間のビジネス関係促進および日本とキルギスの教育機関間の連携や留学生の増加への取り組みといった学術・教育分野での関係強化等にも、微力ながらお役に立てるよう努力いたしますので、皆様のご指導、ご協力を賜りたく、よろしく申し上げます。
以上、略儀ながら御挨拶申し上げます。(高坂宗夫)

ビジネスの発展がキルギスの経済発展の鍵

4月17日、ビジネスコース修了生組織(Gクラブ)の定期会合を実施しました。冒頭、日本センターにこの度赴任した高坂共同所長による挨拶があり、高坂所長はビジネスの成功に不可欠な知識・情報の獲得、およびネットワーク拡大のために、Gクラブの場の活用を呼び掛けました。
会の中では、本年2月の日本研修の参加者の中から、ビジネスコース講師のナシロフ氏とビジネスコース修了者オステレツソフ氏が研修についての発表がありました。発表で強調されたことは、「日本企業は、顧客重視の何世紀にもわたる伝統を慎重に守り、独自の哲学に従って、長期的なビジネス視野、企業の人材開発、顧客満足のため高品質なサービスの提供を重視している。このような一見単純な真理が、キルギスのビジネスの場ではあまり見られない」ということでした。
また、4月18日、68名の起業家や有名企業のマネージャー等、経営管理の知識を幅広く学びたいという受講生のために、第13期の実践的経営管理コースの開会式が行われました。在キルギス共和国日本国大使館から小池大使とキルギスJICA事務所から大山所長が、コースで得た知識を活用して自らのビジネスアイデアの実現を呼び掛けると共に、彼らのビジネスそのものが国の経済発展に貢献するというメッセージを送って下さいました。受講者は7月中旬までの3ヶ月間を通して、国際的なビジネスの実践的なスキルを得るために勉強します。(サグデワ・オクサナ)



SMMはビジネスプロモーションの効率的な方法

4月22日から25日まで第4回のIT・SMMコース「インターネット上のビジネスプロモーション」を開講しました。受講者からは、実用的かつ視覚的な内容だったという声が上がっています。最終日にはSMMをどのように実際のビジネスに活用するかという事例紹介のために、2名の講師からの特別講義を実施しました。1名は、日本センターのビジネスコース「実践的経営コース」の修了生である、「startapa mag.kg」の創設者、ミハイル・アグエフさんで、アグエフさんはSMMの専門家であり、「startapa mag.kg」は衣類業界へのウェブ上のサービスを提供する企業です。もう1名は、パベル・クレシヨフさんで、SEO*の専門家です。「SEOの理論と実践」と言うテーマでの講義となりました。このITコースは今後も継続して実施していく予定です。

*SEO【Search Engine Optimization】はある特定の検索エンジンを対象として検索結果でより上位に現れるようにウェブページを書き換えること。または、その技術のこと。これとは別に検索エンジンに直接広告出稿して自社Webサイトへの訪問者数を増やすマーケティング手法として、サーチエンジンマーケティング(SEM)があり、SEO・SEMマーケティングとして一括りで取り扱われることもある。(出典:wikipedia www.wikipedia.co.jp より)
(アレクセエフ・アレクサンドル)

JDSプロジェクト事務所からのお知らせです。
2013年度JDS最終候補者が決定しました!

2013年夏にキルギスを出発し、日本での留学生生活を始めるJDS留学生最終候補者が今年2月に確定しました。JICAの実施する留学事業である「人材育成支援無償(JDS)事業」は、キルギスの公務員を対象に、(1)社会・経済開発上の政策や計画の立案・実施に関わる若手実務家を育成すること(2)帰国留学生が日本のよき理解者として両国間の基盤強化・拡大に貢献することを目的とした、日本の受入大学での2年間の修士号取得プログラムです。一般財団法人日本国際協力センター(JICE)が、現地での募集・選考から日本への受入手続き、留学生の日本滞在中の支援、留学成果の総括に至るまで、一貫した留学生受入サービスを提供しています。
この事業は2006年度からキルギスで開始され、今まで101名の留学生を日本へ送り出してきました。今年度の来日留学生に関しても、昨年夏から公募が始まり、日本の受入大学の教員による書類選考や面接、キルギス・日本政府によって構成されている運営委員会による面接を経て、計15名の最終候補者の留学が確定しました。最終候補者は、現在大学への入学手続きや、留学に向けた自主学習に励んでいるところです。
JICEキルギスJDSプロジェクト事務所では、来年度来日予定のJDS留学生募集のため、今年も夏から公募を開始する予定です。(JDSプロジェクト事務所)

遠い日本!

私は日本センターの司書です。この度、日本語の能力を向上するために国際交流基金関西国際センターで文化・学術専門家日本語研修の6ヶ月コースを受けてきました(2012年9月19日から2013年3月20日まで)。研修の感想についてホームページに掲載しています、是非お読みください。(www.krjc.kg)

(アキルバエワ・ジャンナ)



短期文化講座はいかがでしたか?

3月に開催した短期文化講座では、各コースの参加者たちは、日本文化の歴史的側面を学んだだけでなく、その文化のプロセスにも積極的に参加しました。一部、参加者の声を紹介いたします。
「私たちは短いコースだったにも関わらず、茶道の“禅”の精神を体験し、感じることができました。先生に感謝しています。彼女は、茶道に対する私たちの興味を目覚めさせることに成功し、私たちにもっと知識を得たいと思わせ、得た知識を他の参加者と共有させました。(茶道コース:カリバワ・アセリ)」
「各々のコースは、日本文化を深く学ぶことができます。コースの初めの数分は、その日に制作する手工芸品の歴史について学びました。最も感動したのは、私たちがいつも使っているスカーフからお洒落なカバンを作ったことです。(日本の手工芸コース:ククシキナ・オリガ)」
「私は、書道は私たちの精神を成長させ、文字に命を吹き込むと気付きました。書道の練習を通して、私はより平和で寛容な気持ちになりました。(書道コース:タコエワ・アイスモアット)」
その他の感想はwww.krjc.kgにてご覧ください。
短期文化講座は、日本人の方のご参加も歓迎いたします!(実施言語は原則ロシア語となります)(石川 敦子)

5月の行事

『さつき祭』開催のお知らせ

日本センターのパトナーであるキルギス民族大学の80周年記念行事に併せ、5月29日(水)、文化と友好の祭である毎年恒例の「さつき祭」を開催します。当日は日本文化を紹介する折り紙、伝統的な遊び、書道、浴衣着付け等の体験ブースの他、剣道、空手、居合道等の武道の演武と様々なステージでのプログラムを予定しています。また、色々な日本食や商品の販売も予定しています。お子さんから大人まで楽しんでいただけるフェスティバルにしたいと思っていますので、皆様、是非お越しください。
日時: 2013年5月29日(水)、11:00~15:00
(雨天決行。なお、雨の場合はプログラムに変更があります。)
場所: キルギス民族大学7号館(日本センター)の裏のスペース
(詳しくはwww.krjc.kgをご参照ください。)

(ジョルプベコワ・カニケイ)

「5月の祝日」へのご招待

2013年5月16日と23日、「5月の祝日」というテーマで「日本語で話そう会」を実施します。是非御越しください!
4月18日の「日本語で話そう会」では、旅行をテーマに実施し、キルギスに在住している日本人と一緒に世界の有名な観光地にバーチャル旅行をしました。インタラクティブでも興味深い会となりました。詳細は、ホームページと本ニュースレターの『知っていますか?キルギスのこんなこと!』のコーナーをご覧ください。

(カルチガエフ・カイヤット)

『新しい世界を開く日本語』

3月20日、キルギス民族大学で日本語弁論大会が行われました。6位になった日本センター学習者ニヤザリエワ・エルビーラさんが5月4日アルマティ(カザフスタン)で行われる中央アジア日本語弁論大会に参加します。エルビーラさんが抱負について語ってくれました。
“...この大会は私にとっては新しく面白い人生への始まりとなっています。コンクールに参加し、自分の子供たちにとって模範となるような人になりたいです。私は日本センターを代表して参加しますので、応援してくれる友人、日本センターに対する責任感を持ち、皆さんの期待に応じられるように頑張りたいです...”
(詳細はホームページをご覧ください。www.krjc.kg)



(サルクエワ・アイジャン)

「私の印象に残った一冊」~ 図書室会員より ~

『印象に残った一冊』

インクル・チョルボンアタで青年海外協力隊(PCインストラクター)として活動されている、高木俊洋さんの日本センター図書室の中から「印象に残った1冊」のご紹介です。
「深夜特急」著者:沢木耕太郎
私がこの本に出会ったのは、あれは拾八歳の頃。深夜特急を初めて読んだときの衝撃は今でも忘れない。私はお金は無いけど暇だけはあるとい、今と変わらない物足りない気持ちで生活を送っていた。それまでは全く経験したことが無い放浪の旅。私とはさほど年が違わないかつての著者が見てきた世界。そんな世界に憧れ旅に出て、海外に住みたいと思い、JOCV(青年海外協力隊)を受験した。
そしてキルギスへやってきた。そして、間もなく帰国する。理想と現実はずいぶん遠い。その距離感を知ることが出来た事だけでも、キルギスに来た甲斐があったのでは無いか。著者は、いつしか旅にどっぷりとはまり込み、旅の日常に慣れ切ってしまう、倦怠さえ感じ始めている...と悩み。また、私も悩み...



「知っていますか?キルギスのこんなこと!」~日本語で話そう会より

- ① チョルボン・アタの東側湖畔には、「ルフ・オールド」という大きな公園があります。「ルフ・オールド」とはキルギス語で「精神的なセンター」という意味です。「神様は一人である」という独自の思想のもと、イスラム教、正教会、カトリック、仏教、ユダヤ教、世界の五大宗教が団結する場所とされています。宗教・文化センターであるこの公園では、夏にはコンサートも行われ、市民の憩いの場となっています。
- ② ビンケクの西部に「オシュ・バザール」という市場があります。どうしてビンケク市内なのに、「オシュ」という名前がついているのでしょうか?商人にはオシュ出身の人が多いためから?オシュへと続く道にありから?オシュで野菜、くだものが多く早くできるから?実は、ソ連1980年代初頭、ソ連の市場は取り壊され、その場所にオシュから来た労働者が新しい市場を作り上げました。そこから、「オシュ・バザール」という名前になったということです。(アキルバエワ・ジャンナ)

広報

ビンケクで発行されている雑誌「Человеческие ресурсы」(Human Resources)の2013年第2号(22)に、日本センターの特集記事「キルギスの発展に貢献~ビジネスが産業発展の鍵~」が掲載されました。(24~26ページ)是非ご覧ください。日本センター図書室で定期購読しています。